特集
「日本産業の将来のあり方の提言」

・第1回：はじめに、日本経済の停滞の要因

・第2回：停滞要因の分析から提言へ

・第3回：提言の基本理念、提言1　ビジョン

・第4回：提言2～5　目指す社会

・第5回：提言6～10　新領域と施策　おわりに

「日本産業の将来のあり方の提言」

第３回
～「提言の基本理念」と「10の提言」～

提言に先立ち、根幹となる「提言の基本理念」を定めた。

提言の基本理念

世界にはない日本らしさ、日本の良さや強みである安心・安全、健康社会、環境重視、地道な磨き上げなどを活かし、「人に優しく、地球に優しい社会」を形成する。それにより「持続可能な社会」の実現を図るとともに世界をリードし貢献することで、世界に誇れる日本となることを目指す。真のグローバルSDGs実現のために、「人に優しく、地球に優しい社会」の下で「ウェルビーイング（人の幸せ、健康、福祉）」を享受できることが重要である。

政治環境、経済環境の激変や自然環境の暴走などの厳しい状況の中で、食・資源・エネルギー確保、環境保全、医療・介護、防災・減災、地域創成、地産地消など、社会課題解決へ対応する技術や仕組みは日本の強みとなる。現下の日本の置かれた厳しい状況を強みに転換する好機ととらえ、日本と世界の成長に貢献する。政治、行政、産業、教育、個人のあらゆるレベルで「変革」を進めることにより「失われた30年」から脱却し、世界に誇れる存在感がある日本を取り戻す。

「ビジョン」「めざす社会」「新領域と施策」の３つの体系で、「10の提言」を行う。

本稿では「10の提言」のうちの最初のビジョン形成の提言1．を記し、残りの9項目の提言は第4回、第5回に掲載する。

提言の体系

提言の基本理念　日本らしさや強みを活かして「人に優しい、地球に優しい日本」をつくり、グローバルに貢献し、世界に誇れる日本を取り戻す

ビジョン
- 提言1. 日本のグランドデザインとしての新しい国家ビジョン・企業ビジョン・組織ビジョンの形成

目指す社会
- 提言2. 新しい産業レジームの創設
- 提言3.グローバル視点での地産地消による産業振興と豊かな地域社会の実現
- 提言４.サーキュラーエコノミー（循環型経済）社会への転換
- 提言5. 減災・防災型社会の実現

新領域と施策
- 提言6. 医療・介護支援領域
- 提言7. 社会課題解決型戦略特区の創設
- 提言8. スタートアップ型企業による経済けん引
- 提言9. クリエイティブな精神や人材を生かす会社構造・組織構造
- 提言10. 国際ルール形成戦略

提言１．日本のグランドデザインとしての新しい国家ビジョン・企業ビジョン・組織ビジョンの形成

米国の価値観を受け入れ、米国に従っていれば安心するという「戦後レジーム」からの脱却が必要である。今こそ日本のグランドデザインとも言うべき日本独自の新しい国家ビジョン、真の国際貢献ビジョン、企業ビジョンを形成する時期にきている。
世界にはない日本の良さ（環境に優しい、地道な磨き上げなど）を再認識し、日本のもつインクリメンタル・イノベーション力や日本向きイノベーション力によってグローバル貢献するというビジョンを持つことが重要である。

天然資源に乏しい日本において「もったいない精神」を取り戻し、「サーキュラーエコノミー」（循環型経済）への転換を図り、リユース、リサイクルにより資源の利用効率を最大化することで、資源の安全保障にも大きく寄与するとともに脱炭素化社会実現に貢献する。サーキュラーエコノミー実現に向けた国家ビジョンが必要である。

日本の「エネルギーと鉱物資源の安全保障：国家としての耐久力」の観点から、エネルギーと鉱物資源を海外からの輸入に頼る構造から少しでも脱却する必要がある。幸いなことに世界第６位の海洋国家日本は、豊富な未開拓な「海洋資源」に恵まれた「海底・海中・海面・海上」を領有している。「海洋資源」の開拓技術を確立し商用化を図り、世界の島嶼国と連携した「海洋資源」の地産地消と新たな地域産業とその地域の雇用創出に貢献する長期の国家ビジョンが必要である。
日本の「食の安全保障：国家としての耐久力」の観点から、国内での食・天然素材の地産地消を推進するとともに、「一次産業生産性向上」×「一次産業の六次産業化（一次×二次×三次）を推進する食・天然素材のプラットフォーム」を実現する。その施策をグローバル展開する中長期の国家ビジョンが必要である。

上記提言は、持続可能な社会実現、新たなビジネス創出や産業構造創出を意図するものである。国家ビジョン、企業ビジョン、組織ビジョンの下、実現のための許認可や法制度などのタイムリーな見直しや挑戦する仕組みつくりが大事である。

以上